富士見市都市計画マスタープラン 第１章～第２章（概要版）

資料4

第１章　都市の現状・課題　※「1　都市の概況」は省略

2　近年の都市計画関連制度の動向

○集約型都市構造の実現　○都市のスポンジ化への対応　○都市内の農地保全
○災害に強い都市づくり　○多様な主体の都市づくりへの参画

3　都市づくりの現状　　4　都市づくりの課題

人口変動に伴う生活環境づくりと市街地の広がりの抑制

＜現状＞
- ○ 高度経済成長期に開発された一部の市街地で空き家の増加や都市基盤の老朽化が進行
- ○ 少子高齢化の進行と人口減少に伴い財政状況が厳しくなり、拡散した居住者の生活を支えるサービスの提供が将来困難になる可能性がある

＜課題＞
- ○ 若い世代の定住促進や、高齢者が安心して暮らすことができるよう、日常生活に不可欠な生活利便施設や住宅を交通利便性の高い場所に立地誘導するなど、魅力ある市街地の形成が必要
- ○ 既存インフラの有効活用のため市街地の拡大を抑制し、持続可能な都市を実現していくことが必要
- ○ 住宅の郊外立地が進み、市街地が拡散し、低密度な市街地を形成しているため、市街化調整区域では、住宅開発を認める制度について、区域を縮小するなどの見直しを検討することが必要

特徴ある拠点や市街地の形成

＜現状＞
- ○ 東武東上線各駅周辺では、商業機能が衰退
- ○ 地域活性化のため、シティゾーン、水谷柳瀬川ゾーンの開発への期待
- ○ 市街地内は落ち着きと統一感のある街並みが広がるが、中高層建築物の建設に伴う、周辺住環境への影響が発生

＜課題＞
- ○ 駅周辺市街地を充実させ、周辺地域の持つ資源を生かした特徴ある拠点形成が必要
- ○ シティゾーンでは、周辺環境に配慮した企業や文化・教育といった都市施設の土地利用の推進、中心交流拠点としての魅力化といった視点からのまちづくりが必要
- ○ 水谷柳瀬川ゾーンでは、農用地区域であることなどを踏まえ、具体的な土地利用の方向性を示すことが必要
- ○ 高層建築物の建設に伴い、住環境に影響を及ぼす問題が生じていることから、建築物の高さに対する一定のルール作りが必要

誰もが安全で快適に利用できる交通環境の推進

＜現状＞
- ○ 市域南部を中心に慢性的な渋滞箇所がみられるほか、都市計画道路の未整備区間が多い
- ○ 通勤や通学に鉄道を利用する人の割合が多い
- ○ ふじみ野駅周辺では放置自転車が市内他駅よりも多い

＜課題＞
- ○ 誰もが安全でスムーズに移動できるように道路の環境整備や、体系的な道路ネットワークを形成することが必要
- ○ 都市計画道路の整備の推進と、長期未整備路線の検討が必要
- ○ 鉄道駅及び駅周辺では、放置自転車対策を引き続き進めるとともに、駅構内や駅周辺のバリアフリー化された環境整備が必要
- ○ 鉄道駅やバス停から遠い地域などで地域公共交通の検討が必要
- ○ 公共施設などの都市施設については、適正な維持管理と計画的な改修・修繕が課題。また、段差の解消や勾配の緩和などのバリアフリー化の促進が必要

自然・歴史文化の保全と活用

＜現状＞
- ○ 水辺環境、田畑、斜面林や社寺林など郷土性豊かな観光資源、富士山への眺望などの地域資源が多い
- ○ 市域東側、北側には農地が広がり、市域西側には生産緑地が多く分布
- ○ 都市計画公園は全て整備済

＜課題＞
- ○ 地域資源を身近に感じられる環境を創出し、市民生活との関わりを深めることが必要
- ○ 市街化区域内農地にある生産緑地地区は、保全及び活用と解除時の適切な土地利用の誘導が必要
- ○ 都市公園では、施設の老朽化に伴う計画的な改修・修繕が必要

災害に強いまちづくり

＜現状＞
- ○ 自然環境に恵まれている一方で、崖崩れ、河川の氾濫による浸水などの可能性が高い地区が存在
- ○ 木造家屋が密集した災害に弱い市街地が存在

＜課題＞
- ○ 自然災害に対する都市の防災機能の強化や、大規模地震や大雨の発生による土砂災害や水害などに強い防災対策を進めていくことが必要
- ○ 密集市街地においては、準防火地域に指定するなど、即効性のある効果的な施策を実施することが防災の課題であり、地域と協働で防災上の安全を高める防災対策が必要

政策企画課で検討中

第２章　将来都市像・都市づくりの目標

1　将来都市像

2　都市づくりの目標

目標①「誰もが住みたい・住み続けたい」

生活環境が整った暮らしやすいまちづくりを進めます。

○若い世代にとっての住宅、身近な就業環境や子育てしやすい環境を充実して、住み続けられる環境が整ったまちをつくります。その結果、生活の場として選ばれ、住み続けたいと考える新たな居住者増加を目指します。

○高齢者にやさしい住み慣れた地域でいつまでも元気に活動できる都市空間を地域ごとに形成することを目指します。

目標②「キラリと光る」

魅力・活力が生まれる市民の拠点づくりを進めます。

○地域資源を丹念に発掘し生かしつつ、駅周辺などの生活拠点の活性化へとつながるまちをつくります

○産業・文化の魅力ある拠点を集約的に創出することで、市民活動を促進するまちをつくります。

○市民が交流し、つながりを持った身近な社会の形成を目指します。

目標③「誰もが移動に苦労しない」

安心・安全な交通の利用環境づくりを進めます。

○ 都市計画道路等の整備を推進し、スムーズに移動できる道路ネットワークが形成されたまちをつくります。

○ 地域公共交通網を充実し、交通利便性の高いまちをつくります。

目標④「まちと自然が共存する」

自然環境を活かした地域資源を育むまちづくりを進めます。

○ 農地（生産緑地含む）や斜面林、河川空間などを市民が身近な自然や歴史に触れる空間として活用し、市民の心に富士見市や地域への愛着や誇りが持てるまちを目指します。

目標⑤「安全な暮らしを実現する」

自然災害に強い防災力の備わったまちづくりを進めます。

○ 防災対策や復興事前準備への取り組みの推進などを通じ、早期に都市機能が復旧する災害に強い都市基盤のあるまちをつくります。

○ 住宅密集地での防災・減災対策に取り組みつつ、市民や地域組織と協働した防災・減災対策を通じて地域社会での防災力を向上させ、防災体制の整ったまちをつくります。